氏　　名(本籍)	**中　嶋　猛　夫**（東京都）
学位の種類	学　術　博　士
学位記番号	博 美 第 3 号
学位授与年月日	昭和60年3月25日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当 美術研究科　美術専攻　デザイン研究領域
学位論文等題目	**日本の山岳寺院・神社の境内構成研究** **— 境内構成における遥拝山の位置付けについて —**
論文等審査委員	（主　査）東京芸術大学教授（美術学部）　稲次　敏郎 （副　査）　同教授（美術学部）工学博士　清家　清 同教授（美術学部）　吉田左源二 同教授（美術学部）医学博士　中尾　喜保 同助教授（美術学部）工学修士　前野　巍

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は，日本の山岳寺院・神社の境内構成の内に，境内領域の内外にかかわらず，多くの場合遥拝の対象となる山岳が存在し，その山岳への眺望点が境内内構成の重要な位置を占めていることに注目し，山岳寺院・神社について，その遥拝の対象となる山岳と眺望点の関係を実地調査，その境内内における眺望点の位置と対象山岳への仰角関係，及び眺望点における宗教的感動を高めるための参道構成の要素・技法について分析し，日本の山岳寺院・神社境内の構成基準の存在を明らかにした。なお本研究の調査対象は，遥拝対象となる山岳と境内内眺望点の関係から，境内外の広域な範囲に及ぶものであり，境内内参道構成は眺望点における効果を期待せしめる要素として，眺望構成と一体に位置付けている。

本論文は「日本の山岳寺院・神社の境内構成研究—境内構成における遥拝山の位置付けについて—」と題し，5章から構成されている。

第Ⅰ章「序論」では，本研究に至る動機及び関連する既往の研究について概説し，前述の如き研究の目的，及び方法について述べている。方法については地形図上及び実地踏査による収集資料を基本素材として，その境内構成に共通項を抽出し，その代表的な山岳寺院・神社25ケ所を本州・九州・四国より選定，第Ⅱ章に述べる認識に基づき，境内構成の分析を行った，としている。

第Ⅱ章「日本の山岳寺院・神社と遥拝山の関係」では，1において，日本における原始山岳信仰からの修験道の発生と，山岳宗教としての修験道の成立，及びその内容・変遷について概説し，研究対象である「遥拝山」の意味を宗教的解釈の元に位置付けている。

2においては，1における宗教的意味をふまえた上での遥拝の対象となる山岳と境内との関係位置を示し，遥拝所（眺望点）が境内構成の上で重要な位置を占めることを述べた。続いて，遥拝所での宗教的感動を増巾させる意味において参道のあり方を位置付け，俗から聖への段階構成，結界，及びそれらの見せ方としての要素・技法が参道構成に存在し，遥拝所と参道は一体となって境内は構成される，としている。

本章は，本論における山岳寺院・神社の境内構成を研究対象とした背景について述べたものである。

第Ⅲ章「調査」では，1において，本研究は宗教的儀礼・習慣等を除き，視覚的形象を対象としたものであることを述べ，第Ⅰ章に述べたような経過により選定された山岳寺院・神社について，地形図をもとにした実地踏査・地形測量等による調査方法について述べた。

2においては，25寺社の名称・内容・位置図を示し，各寺社の調査資料は別表に付した。

第Ⅳ章「分析」では，1において遥拝山と遥拝所の関係について述べ，その対象山岳と眺望点の位置関係に2ツの類型〔境内領域外の遠景としての山岳〕・〔境内領域内の目標としての山岳（山頂）〕があり，見せ方として正面性・見返り性があり，いずれもその眺望角に定量的な基準〔仰角5.0°～13.0°〕が存在することを明らかにした。

2においては，遥拝所の位置について述べ，境内構成は低位（寺社務所）・中位（本堂，本宮）・高位（奥院，奥宮）の3段階があり，各々に結界を有して，俗から聖への段階構成となり，遥拝所はいずれかの1ケ所に位置することを明らかにした。

3においては，参道構成の要素と技法について述べ，参道の聖なるものへの意味付けと，それを構成する要素，及びそれら要素を結ぶ結界等の手法と，巡り・見えかくれ・目立ち・登り降りなど，見せ方の技法について述べ，これらを遥拝所（眺望点）との対称的技法として位置付けている。

4においては，遥拝山と周辺環境について述べ，遥拝山の位置を周辺図によって抽出して類型化を試み，第Ⅴ章「結論」を誘導している。

第Ⅴ章「結論」では，各章の成果を要約し，日本の山岳寺院・神社の境内は，境内外の眺望も含めて第Ⅳ章で分析された基準のもとに構成されていることを結論として述べ，今後の研究課題について言及している。

なお，第Ⅱ章「調査」に付随する25寺社の調査資料は，副論文として併せ添付されている。